

人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る

9月11日、アメリカで同時多発テロが起こり死者2973名の大惨事が発生してから、9年が過ぎました。イスラム教過激派の犯行とされ、アメリカはアルカイダの本拠地アフガニスタンの武力制圧を開始しました。しかしアフガン紛争は未だに決着がつかず、アメリカの大きな負担となっています。

その過程でアメリカはイラクをも攻撃して、独裁者フセイン大統領を逮捕殺害しましたが、思うように治安が回復しないままに、この8月で戦争終結を宣言して軍隊の引き上げを開始しました。このように強力な軍事力をもってしても世界各地でテロ活動を行う過激派を取り除くことが出来ないのです。

この時にフロリダの小さなキリスト教会の牧師が、イスラム教の聖典コーランを燃やすと宣言してイスラム教徒の反撥をかい、世界各地でイスラム教徒の抗議行動が起り、大きな社会問題になりました。その牧師は「イスラム教は悪魔の教えだ」と公言して、インターネットでコーランを持ち寄るよう呼びかけたところ、200冊集まったそうです。こんなことで世界に平和がもたらされるのでしょうか。

世界は科学・技術が進むにつれて豊かな経済力によって大きく様変わりしてきました。しかし人間は地球を破壊する核兵器を造り出してしまったのです。一方国や部族の間では戦争・紛争が絶えず、人々が殺されていきます。私たち罪深い人間の手では、全ての人々が平和に暮らせる世界を作れそうにありません。でも聖書は、神さまが最終的に真の平和な世界を与えてくださるという約束と希望とを示してくれています。

神さまが備えて招いてくださる新しい天と地。その記述で私が注目するのは「人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る」という言葉です。日本には日本ならではの独特の美しい文化があります。同様に世界の各国にも、それぞれの美しい文化があります。神さまはその栄光と誉れを携えて集まって来なさいと招いて下さる、というのです。

Mちゃんはシンガポールで小学校4年生から6年生までを過しました。折角の外国生活だからと5年生から2年間、国際校の小学部に転校して英語で教育を受けました。授業についていくのに、それはそれは大変な努力をしました。さて日本に帰国して中

学に入りました。ところが得意な英語の時間にいじめを受けました。発音もスピーチも理解力も抜群だからでした。なんと情けない話でしょうか。

私たちは他人の優れていることを、素直に喜び合えない心の持ち主なのです。聖書にはイエス・キリストが十字架で死んでいかれた様子が詳しく記されています。キリストが逮捕される直前、最後の晩餐を弟子たちとなさったその後で、12人の弟子たちがしたことは「誰が一番偉いか」の争論だったのです。

神さまは、世界中の人々がそれぞれの国民の栄光と誉れを携えて集まって来る天国を備えて、招いてくださろうとしています。人よりも自分が優っていなければ満足できない心の持ち主では、他の民族の栄光と誉れを喜び合えません。けちをつけ、けなし合い、争い合い、たちどころに天国が天国ではなくなってしまうのです。ですから神の都に入れる条件が、はっきりと書き記されているのです。「しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行なう者はだれ一人、決して都に入れない。」

全てのものを非常に良いものとして創造して祝福して下さった神さまが、この世の終わりに、歴史のなかで生まれたそれぞれの民族の文化を、栄光と誉れとして携えて来るようにと招いて下さっているのです。「イスラム教は悪魔の教えだ」といってイスラム教徒の栄光と誉れを傷つけるキリスト教徒こそ、神さまが備えて下さった神の都に騒乱を惹き起す「汚れた者、忌まわしいことと偽りを行なう者」ではないでしょうか。悔い改めて十字架の清めにあずからなければなりません。

“キリストは十字架によって敵意を滅ぼされました” 聖書